

14. 少年団も頑張っている

1 広島県での事例

安佐南まもるんジャー隊について

2002年より「減らそう犯罪安佐南」のスローガンの下、犯罪撲滅モデル地区として、区民・警察・行政が一体となって、犯罪抑制に向かって取り組んでいる。

少年少女の犯罪増加、犯罪の低年齢化に歯止めをかける対策の一環として、志ある少年少女が、自ら犯罪に対する自覚を持つと共に、同年代の子ども達と同じ視線で犯罪に対する防犯意識を持ってもらうように呼びかけ、一人でも多くの子どもが犯罪を”おこさない”，”おこさせない”地域にしたいとの思いで、2004年12月18日に結成された。小学生から20歳未満の少年により構成されており、警察の指導の元、様々な防犯活動を行っている。

活動の内容

月1回程度、万引き防止などを呼びかける街頭キャンペーンや、公園などの清掃活動を実施している。その他の活動として、

- ・自転車防犯診断
- ・チラシ配り
- ・ティッシュ配り
- ・ポスター貼り
- ・店内パトロール
- ・地域祭等パトロール
- ・地域老人ホーム訪問
- ・地域清掃等

(参考：安佐南まもるんジャー隊ホームページ)

<http://asaminami.web.fc2.com/index.html>

自主防犯ボランティア支援サイト

http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/katsudo_jirei/34hiroshima/k_hiroshima001.html

2 愛知県での取り組み

愛知県では警察が主体となり、選定したモデル校で**防犯少年団**を発足しています。

KONOHAKI キッズについて

目的

防犯少年団（通称“コノハキッズ”）は、子ども自身が安全について勉強し、防犯について考え行動する「子どもの安全リーダー」を育成し、防犯知識の習得と危険から身を守る能力の向上を図るとともに、子ども同士による安全知識の普及を目的として平成19年度に設立されました。

防犯少年団の構成

愛知県内の各警察署（中部空港警察署、名古屋水上警察署を除く44署）ごとにモデル校1校を指定し、5年生を中心とした概ね10人で構成されています。



←イメージキャラクター
「コノハキッズ」

活動の内容

KONOHAKI キッズに選ばれた児童は、研修会に参加し、下級生への安全指導や、通学路の安全点検、校区内での防犯広報活動等を警察官と一緒にを行います。こうした防犯活動を通じて他の児童の防犯意識の向上を図っています。

(出典：愛知県警察ホームページ)

http://www.pref.aichi.jp/police/safety/zyosei_kodomo/kids.html

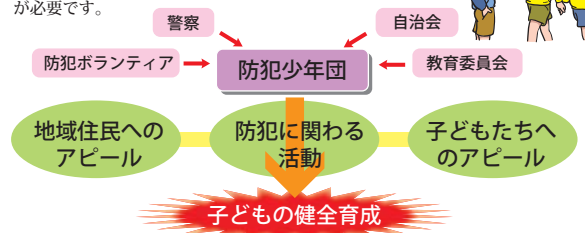
14 少年団も頑張っている

非行防止の取り組み

1 2

防犯少年団は地域に居住する青少年が参加し、地域への防犯活動や啓発活動などを行うボランティアグループです。将来を担う少年たちを心身に健全で明るくたくましく育て、犯罪のない安全で安心して暮らせるまちづくりのため活動します。活動の目的は、子ども自身が安全について学び、防犯について考え行動し、防犯知識の習得と危険から身を守る能力の向上を図るとともに、子ども同士による安全知識の普及を行うことなどが挙げられます。

防犯少年団は地域の防犯ボランティア団体や自治会が中心となって推進委員会を組織し、地域の子どもに参加を呼びかけて結成します。教育委員会や警察が呼びかけて、学校ごとに組織される例もあります。大切なのは、子どもたち自身が防犯のために何をすればよいかを考え、自主的に地域の防犯活動を実施することです。また、それらのボランティア活動を通じて子どもたちの中から防犯リーダーを育て、リーダーの指導の下に活動を継続していくことも大切です。推進委員会が結成できれば、活動組織や活動内容を話し合い、一般の防犯ボランティア団体と同じように、腕章やタスキ、のぼりや目立つ色のジャンパーなどを着用して結団式を開催するなど、大人の支えと指導が必要です。



子どもたちの健全育成が大きな目的

3 防犯少年団の活動の事例

広島県安佐南まもるんジャー隊

12月23日の午後3時、フタバ図書MEGA 祇園中筋店（同区中筋四丁目）に集合した小学生から高校生までの隊員15名とその家族約10名は、吉田勝弘店長から万引きの実態などを聞いた後、4班に分かれ、交代で店舗内パトロールと啓発ちらし、ティッシュの配布を行った。



▲配布された啓発ちらし

店長さんは「万引きは遊びじゃなく、泥棒と同じ犯罪です」と隊員らにわかりやすく説明し、「万引

きの被害額は売上げの1%ぐらい。この店だけでも年間何百万円の被害があります。」と話した。隊員らは被害の多さに驚いていた。

店内の防犯カメラに死角があること、万引きする人は周りの様子を窺うことなど、万引きの実態やパトロールの必要性を教わり、店内の自分たちが必要と思う場所を考えながら巡回した。制服のベストには万引き防止ステッカーを貼り、「ストップ・ザ・万引き」と書かれたパネルを先頭に、万引き防止を呼びかける姿に、店内のお客たちの中には笑顔で答える人もいた。



店舗入口では、少年犯罪防止緊急アピールと「もしも万引きをしたらどうなる？」などが掲載されたちらし230枚をお客に配布した。隊員らは「万引き防止に協力してください」と懸命に呼びかけていた。



最後に、店長さんから「今日の体験を忘れずに周りの友人たちにも話して、皆で万引き防止に心がけてください。そして元気で立派な大人になってください」と激励を受け、活動を終えた。隊員らは休日の午後で混雑するお店でのキャンペーンを経験し、万引き防止活動の必要性を感じた様子であった。

「子どもたちが万引き防止を自ら考えることで、万引きしない子どもたちの輪が大きく広がってほしい。このような取り組みがあれば、今後も協力したい」と店長さんは期待していた。

（出典：広島県少年犯罪緊急防止プロジェクト事業報告書

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/cspt/spt/tie/kobetu/asaminami10.htm>）

3

規準表(44a) 非行防止に関する取り組みについて理解している。

ねらい □□ ①非行防止に関する取り組みについて具体的な事例を説明できる。

14

防犯少年団の活動

具体的な活動内容としては、まず、電柱に糊付けされた違反広告のはり紙をはがしたり、壁の落書きを消したり、路上のタバコの吸殻やゴミを拾ったりする地域の環境美化活動が挙げられます。また、校区内の見回りをし、その際に犯罪や非行防止を呼びかける防犯パトロールも重要な活動です。これら以外にも、駅前やショッピングセンターなどで万引きや車上ねらい、ひったくりなどの防止を呼びかけるビラやティッシュを配ったりする防犯啓発キャンペーンや、駐輪場で自転車の防犯登録や施錠の状態を調べる自転車の安全診断、防犯パトロールで調べたことを地域の地図にまとめる地域安全マップづくり、老人ホームへの慰問など、様々な活動があります。



▶ビデオ資料▶ (関連ビデオ▶ 子どもたちの防犯活動、非行防止と若年層の参加)

※ビデオを見て防犯少年団の活動と効果のポイントをまとめてみましょう。

Column

防犯少年団の役割

防犯少年団は子どもたちの健全育成の場としてだけでなく、学校以外の子どもの居場所としても大きな役割を果たします。そのためには、防犯少年団を指揮する大人が子どもたちとの会話を積極的に行うことが大切です。子どもが積極的に活動に取り組めるようにするためにも、子どもと話せる環境づくりを行い、活動を推進していくことが重要であるといえるでしょう。